

戦評用紙

大会名	第67回藤井杯・高野杯山形県高等学校バスケットボール選手権大会
-----	---------------------------------

日時	2015年4月26日12:45～	区分	山形県バスケットボール協会
----	------------------	----	---------------

チームA				チームB
山形市立商業				上山明新館
66	24	1Q	12	34
	8	2Q	12	
	24	3Q	2	
	10	4Q	8	
		延長		

【戦評】

白:山形商業「4・6・7・8・9」、青:明新館「4・5・6・7・8」ともにハーフコートマンツーマンDefでスタート。立ち上がりお互いに激しいDefで主導権をとろうとする。山商は8のカッティングやリバウンドなどの力強いプレーで得点していく。先に仕掛けたのは山形商業。オールコートのマンツーマンDefでプレッシャーを強めていく。明新館も7が3Pを決めるとオールコートマンツーマンプレスをしかけて反撃する。お互いに粘り強くDefをするが、山形商業は、「7」「8」の1on1とオフェンスリバウンドからのシュートで得点を重ね、24対12の山形商業12点リードで、第1ピリオド終了。

第2ピリオド、お互いにハーフコートマンツーマンDefで始まる。お互いに激しく守り合い、得点が動かない。山形商業はリバウンドからのシュートで得点を入れると明新館も「7」のジャンプシュートや「8」のドライブから5へのアシストなどで得点していく。6:38で明新館が1-1-3のゾーンにディフェンスを切り替え、勝負をかける。ゾーンディフェンスを攻めあぐねている間に明新館「5」と「8」の3Pが決まり、明新館のいいリズムの中、32対24、山形商業8点のリードで前半を終える。

後半、山形商業ハーフコートマンツーマン、明新館は1-1-3ゾーンDefでスタート。山形商業のDefプレッシャーが効きはじめ、明新館のボールがまわらなくなり、苦しいシュートを打たされる展開。逆に山形商業はポストを基点にスムーズにボールをまわしゴール下で得点を重ねていく。明新館も最後までがんばるが、徐々に点差が広がっていき、66対34、山形商業が勝利した。

戦評者

渡邊 茂隆